

02-01-450 大型ブレーカ運転

1300kg級 軟岩Ⅰ(B)・軟岩Ⅱ (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00	104kW×0.153
運転手(特殊)	人	0.16	1/6.3h
機械損料(+0.10)	時 間	1.00	バックホウ0.80m ³ (0.60m ³) 超低騒音型 排出ガス対策型 (第3次基準値)
機 械 損 料	日	0.16	大型ブレーカ
計			

備考：01-03-130 大型ブレーカ掘削(山地治山工)、01-03-220 大型ブレーカ掘削(一般)に適用する。

02-01-460 大型ブレーカ運転

1300kg級 中硬岩・硬岩 (時間)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	16.00	104kW×0.153
運転手(特殊)	人	0.16	1/6.3h
機械損料(+0.25)	時 間	1.00	バックホウ0.45m ³ (0.35m ³) 超低騒音型 排出ガス対策型 (第3次基準値)
機 械 損 料	日	0.16	大型ブレーカ
計			

備考：01-03-130 大型ブレーカ掘削(山地治山工)、01-03-220 大型ブレーカ掘削(一般)に適用する。

02-01-490 ササカッター運転

10PS (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
ガ ソ リ ン	ℓ	14.0	
特 殊 作 業 員	人	1.00	
機 械 損 料	日	1.00	
計			5.4h/日運転

備考：01-02-100 ササカッター処理に適用する。

02-01-500 ウッドチップパー運転

30PS (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	24.8	
特 殊 作 業 員	人	1.00	
機 械 損 料	日	1.00	
計			5.4h/日運転

備考：01-02-110 ウッドチップパー処理に適用する。

02-01-550 超ロングアームバックホウ運転

クローラ型 0.40m³(0.30m³) (日)

種 別	単 位	数 量	摘 要
軽 油	ℓ	91	指定事項
運転手(特殊)	人	1.00	指定事項
機 械 損 料	供用日	1.47	指定事項 排出ガス対策型(第1次基準値)
計			

備考：01-01-320 機械土工(超ロングアームバックホウ土工)に適用する。

- ② プレキャスト集水樹据付歩掛 (07-09-190)
 プレキャスト集水樹据付の歩掛は、次表を標準とする。

表5.16 プレキャスト集水樹設置歩掛

(1基当たり)

集水樹製品質量			150を超え 500kg以下	500を超え 1,000kg 以下	1,000を超え 1,500kg 以下	1,500を超え 1,700kg 以下	摘 要
名 称	規 格	単 位					
世 話 役		人	0.2	0.3	0.3	0.3	
特殊作業員		〃	0.3	0.3	0.3	0.4	
普通作業員		〃	0.5	0.5	0.6	0.6	
バックホウ 運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型・クレーン機能付 山積0.28m ³ (平積0.2m ³) 吊能力1.7t	h	2.2	2.7	3.2	3.5	
不整地運搬車 運転	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・ダンプ式2.5t積	日	0.1				必要に応 じて計上 注)1
諸 雑 費 率		%	0.5				

(注) 1 本歩掛は、平均運搬距離50m以下の現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が50mを超え200m以下の場合は、不整地運搬車を計上する。

2 本歩掛は、床掘り(仕上げ含む)、基礎、埋戻しの労務を含む。ただし、材料は別途計上する。

3 諸雑費は、締め機械の費用であり、労務費、バックホウの機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4 運搬機械が上表により難しい場合は、別途考慮する。

5 不整地運搬車は賃料とする。

6 材料使用量

- (1) 遮水シート、吸出し防止材使用量

遮水シート、吸出し防止材使用量は、次式による。

$$\text{使用量 (m}^2\text{)} = \text{設計量 (m}^2\text{)} \times (1 + K) \cdots\text{式6.1}$$

表6.1 ロス率(K)

材料名	遮水シート	吸い出し防止材
ロス率	+0.10	+0.10

- (2) 砕石使用量

埋戻し、基礎、フィルター材等に使用する砕石の使用量は、次式による。

$$\text{使用量 (m}^3\text{)} = \text{設計量 (m}^3\text{)} \times (1 + K) \cdots\text{式6.2}$$

表6.2 ロス率(K)

材料名	砕石
ロス率	+0.20

- (3) コンクリート

集水樹等に使用するコンクリート使用量のロス率は、「04 コンクリート工」による。なお、構造物の種別区分は無筋構造物とする。

- (4) 暗渠管

暗渠管(塩化ビニール製又はポリエチレン製)使用量のロス率は「~~07-19合成樹脂管等設置~~」による+0.01とする。

08-08 矢板締切等（仮設工）

08-08-100 総 則

1 仮設工の設計基準

仮設工は労働安全衛生規則、土木工事安全施工技術指針、市街地土木工事公衆災害防止対策要綱、道路土工・仮設構造物工指針等に準拠して十分安全な設計・施工としなければならない。

(a) 土俵仮締切工

水深1.7m以下の場合（ただし、河積が狭い場合等の条件がある場合は別途考慮する）

土俵天端＝平水位＋30cm程度を標準とする。

（注）中小河川などで流水部の切り替えが容易な場合には、切り替え工法等についても考慮すること。

(b) 鋼矢板仮締切工

(a)以外の場合で、根掘深さが大きい場合、こ線橋の根掘り等の近接工事の場合、その他掘削幅に制限がある場合に適用する。

(c) 築 島 工

一般に構造物の外側と築島矢板外壁面又は、天端法肩との余裕幅は水深にもよるが2.0mを標準として、上流側は水切りを考慮した形状及び寸法とする。

(d) 仮止水壁

井筒天端等に施工される仮止水壁は小規模なものを除き、一般に厚さ30cm内外の鉄筋コンクリート構造又はこれに準じた構造とする。

仮止水壁天端＝平水位＋50cm程度を標準とする。

（注）平水位とは、施工中の平均水位である。

2 矢板締切等仮設工の積算

(1) 数量の算定

1) 鋼 矢 板

積み上げにより算出する。

2) H 形 鋼

①H形鋼杭として使用する場合

積み上げにより算出する。

②切梁、腹起こしとして使用する場合

08-08-500「仮設材の設置・撤去工」表5.1による。

(2) 賃料の算定

1) 建設工事用仮設材（鋼矢板、H形鋼、覆工板）及び鋼製マットの賃料及び積算は、「建設機械等損料算定表」の「建設工事用仮設材賃料算定基準」の定めるところによる。

2) 賃料は、供用1日（1月）当たり賃料として「森林土木事業適用単価表（仮設材賃料）」による。

3) 鋼矢板等の修理費及び損耗費の取扱い

鋼矢板等の1現場当たり修理費及び損耗費は、次式のとおりとする。

$$Y = a \cdot b$$

Y：鋼矢板等の1現場当たり修理費及び損耗費（円/t）※覆工板は単位を（円/m³）に読み替える。

a：係数 b：市場価格

鋼矢板等の1現場当たり修理費及び損耗費算定のための係数及び市場価格

名 称		補助工法	係数 (a)	市場価格 (b)
鋼矢板	本矢板	無	3.60	鋼矢板 整備費
		有	2.60	
	軽量鋼矢板	無	2.75	軽量鋼矢板 整備費
		有	1.98	
H形鋼	杭工	無	2.37	H形鋼 整備費
		有	1.73	
	山留主部材	—	1.09	鋼製山留材 整備費
覆工板		—	1.22	覆工板 整備費

備考1 修理費及び損耗費は、整備費、修理費（特別ケレン・穴埋め・曲がり直し等）、切断による短尺補償、打込による破損を含む。

2 修理費及び損耗費は、土質、打込又は引抜き等の作業条件を十分考慮して摘要を決定する。

3 補助工法とは、ウォータージェットまたはアースオーガ併用工法、硬質地盤専用工法、プレボーリング工法等をいう。

4) 山留主部材の副部材について

副部材の賃料（1件現場当たり修理費及び損耗費を含む。）は、次式のとおりとする。

$$Y = a \cdot b$$

Y：副部材の賃料（円/t）

a：係数 b：市場価格

副部材の賃料（1現場当たり修理費及び損耗費を含む）算定のための係数及び市場価格

名 称		係数(a)	市 場 価 格 (b)	
副部材 (A)	基礎価格	1.21	鋼製山留材、部品、不足分弁償金（新品）	
	供用1日当たり 賃料（日）	90日以内	1.48	鋼製山留材、部品、賃料
		180日以内		
		360日以内	1.47	
		720日以内		
1080日以内				
1現場当たり修理費及び損耗費		1.13	鋼製山留材、部品、整備費	
副部材 (B)	1現場当たり修理費及び損耗費	1.01	鋼製山留材、部品、不足分弁償金（新品）	

備考 副部材（A）に係る賃料計上限度額（1現場当たり修理費及び損耗費を含む。）は、基礎価格の90%とする。